

ネギの大麦リビングマルチによる害虫と高温対策

ネギ栽培において、大麦をリビングマルチ(生きた植物で地表を被覆する)として栽培することで、天敵の棲み家が作られ、ネギアザミウマの被害を軽減させることができます。

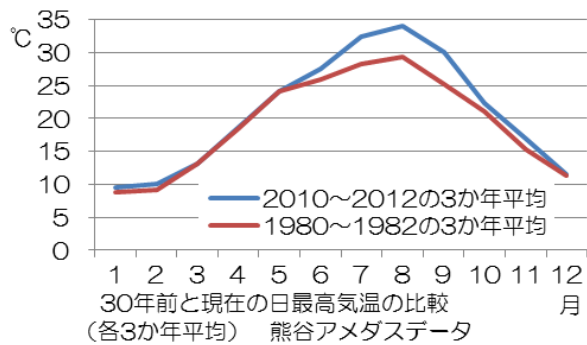
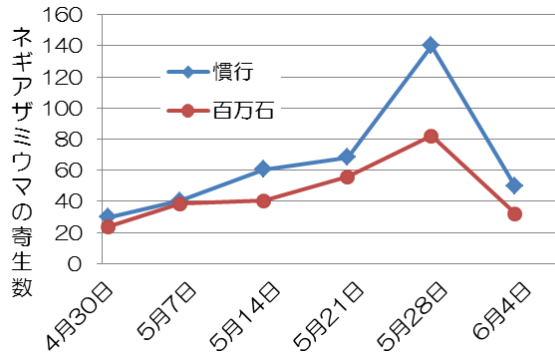
また、近年は温暖化で平均気温が上昇しています。この栽培方法は裸地の部分を大麦が覆うことで、夏場の地温上昇を5℃程度抑制する効果もあります。

さらに、雑草抑制や緑肥投入、乾燥防止効果もあります。個々の効果は小さいかもしれませんが、複数のメリットが期待できる栽培技術です。

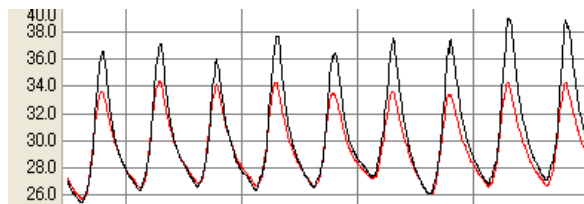


ネギ害虫のネギアザミウマ (左) とネギハモグリバエ (右)

リビングマルチ現地栽培ほ場
大麦は5月上旬は種で、約60日後



ネギアザミウマの寄生状況
ネギの畝間に百万石(大麦)が有ること
でネギアザミウマの寄生数が減少



ネギほ場における地温変化
(地下5cm、平成11年8月9~17日)
黒線：裸地箇所 赤線：大麦生育箇所



ネギハモグリバエの天敵
左：ヒメコバチ類 右：コマユバチ類

(農林総合研究センター 病害虫防除技術担当 TEL 0480-21-1114)